

追悼文

武田喬男先生のご逝去を悼む

2004年2月9日、名古屋大学名誉教授武田喬男先生がご逝去された。享年67歳という、ご退官後の数多くの楽しみを残された早すぎるお別れでした。

先生は、昭和35年に東京大学理学部物理学科をご卒業後、同大学大学院修士課程を修了され、昭和39年6月に名古屋大学理学部附属水質科学研究施設助手、昭和45年水圏科学研究所降水物理学部門助教授を経て、昭和52年に大気環境部門の教授となり、同研究所の改組に伴って平成5年から退官される平成12年まで、大気水圏科学研究所水循環部門を担当してこられました。この間3度所長に就任され、全国の大学附置研究所や直轄研究所の発展にも尽力されました。

学界においては、長期に渡って日本気象学会理事を勤められ気象学の発展に貢献されるとともに、学術会議気象学研究連絡委員会委員、水資源学研究連絡委員会委員、地球物理学研究連絡委員会委員、WCRP 専門委員会委員、測地学審議会委員、学術審議会専門委員として広く活躍され、学術行政に大きく貢献されました。特に、日本ユネスコ国内委員会委員として発展途上国との研究者交流に尽力されました。また、AMTEX, POLEX, WCRP, GAME などの国際プロジェクトの推進に努められ、特に、GAMEの一環として行った淮河流域観測(HUBEX)は、ご子息に中国由来のお名前をおつけになるほど中国がお好きだった先生と、中国の気象研究者との長い親交無しには実現不可能でした。

先生の初期の画期的な業績は、雲物理学的过程と対流力学を結合させることによって、長続きする降水セルのメカニズムを数値モデルによって明らかにされたことで、その功績により昭和48年に日本気象学会賞を受賞されました。このテーマは、修士時代に行った雨滴の蒸発の数値計算を発展させたものだそうです。最初はなかなか計算がうまく行かず、指導教官の正野先生が部屋を覗きに來られる時間に合わせて、屋上に逃げていたという話をされたことがあります。また、長続きする降水セルの数値実験は、カナダのマギル大学で行ったそうですが、留学前に既に個々のプログ



ラム開発は終わっており、後はつなげて走らせるコンピュータさえあれば良いという状態だったので、数値計算は直ぐに終わり、余裕のあるカナダ生活を過ごされたというお話も伺いました。

名古屋大学での35年間の研究生活を通して、理論の人でありながら観測に基づいた研究を重要視され、エアロゾルと雲の相互作用、メソスケール気象学およびそれに基づいた大気水循環学の確立に目覚ましい業績を挙げられました。特に、レーダを利用した観測や、レーダではカバー出来ない広域の雲システムについては衛星データを用い、マイクロ波放射計のデータの有効性についても早くから着目されておられました。これらの業績により、平成13年度には「雲物理学及びメソスケールの大気水循環研究への貢献」によって藤原賞も受賞されました(ちなみに、正四位瑞宝中綬章を死後叙勲されました)。

先生は多くの趣味をお持ちで、手塚治虫好きの先生が好んで描かれる概念図のイラストは大変わかりやすく、多くの方が説明に利用されています。もちろん院生の指導も公私共に細やかで、自宅に招待されるパーティは大きな楽しみでしたし、年末に修士論文の草稿を抱えてご自宅に伺い、先生が原稿を添削されている間、奥様からいただく紅茶とケーキは、多くの院生にとって忘れられない思い出となっています。先生に対して、スマートあるいはクールという印象を持ってられる方が多いと思いますが、ご自身は江戸っ子を誇りにされ、義理堅くかつ茶目っ気もお持ちの一方、たいへんな負けず嫌いで、誰よりも速く歩くことがお好

きでした。以前、いつも会合の度に事前に周到な準備をされて話しておられた几帳面な先生が、これまでに1回だけ準備ができていないと言いつてをされたことがあります。後日、ご子息が交通事故で九死に一生を得られた時であったと知りました。

先生はご退官前から体調を崩しておられましたが、そのご病気からようやく回復されて、30年間続けてこられた家族旅行の出発当日に急性白血病を発症され、そのまま入院されました。「必ず快復するという信念」で闘病生活を過ごされておられたと奥様から伺いました。事実、入院生活の合間に無菌室で何の資料もないまま一般向けの「雨の科学」を脱稿されました。ただ、

半年前に先生からいただいた「それにしても、なんでこんなことが、というようなことが起こるのが人生なのですね」という言葉が、そんな先生の精一杯の弱音だったのかも知れません。

今頃はきっと、切に望まれていたにも拘わらず、力不足で実現してさし上げられなかった自前の観測用航空機の代わりに、ご自身が雲の中に入って、「雲の中ではこんな面白いことが起こっているんだね」と夢中でスケッチを描いておられることでしょう。

衷心より先生のご冥福をお祈りします。

(北海道大学低温科学研究所 藤吉康志)

第21回井上学術賞・井上研究奨励賞受賞候補者の推薦募集

標記の賞は(財)井上科学振興財団が運営しています。

1. 井上学術賞

(1) 概要：自然科学の基礎的研究で特に顕著な業績をあげた50歳未満(2004年9月20日現在)の研究者に対し、学術賞(賞状及び金メダル、副賞200万円)を贈呈する。

(2) 授賞件数：5件以内

(3) 募集方法：指定の関係30学会、及び財団の役員・評議員等からの推薦

この賞の応募には学会の推薦が必要です。気象学会では、7月末ごろに「学会外各賞候補者推薦委員会」を開催して推薦候補者を選考する予定です。その際の参考にするため、推薦するにふさわしい方をご存じでしたら、簡単な推薦理由を添えて2004年7月中旬までに気象学会(下記)あてお知らせ下さい。

連絡先：〒100-0004 東京都千代田区大手町1-3-4

気象庁内日本気象学会

学会外各賞候補者推薦委員会

2. 井上研究奨励賞

(1) 概要：平成13～15年度の過去3年間に、理学・工学・医学・薬学・農学等の分野で博士の学位を取得した35歳未満(2004年9月20日現在；医学・歯学・獣医学の分野については37歳未満)の研究者で、自然科学の基礎的研究において新しい領域を開拓する可能性のある優れた博士論文を提出した研究者に、賞状、メダル及び研究奨励金50万円を贈呈する。

(2) 授賞件数：30件

(3) 募集方法：博士論文を指導した研究者の推薦に基づき、学位を授与した大学の学長からの推薦

(4) 推薦締切日：2004年9月20日(月)

(5) 照会先：財団法人井上科学振興財団

〒150-0036 東京都渋谷区南平台町15-15
南平台今井ビル601

電話：03-3477-2738, FAX：03-3477-2747

E-mail：inoue01@inoue-zaidan.or.jp

URL：http://www.inoue-zaidan.or.jp